

2020/7/25

福山特別支援教育研究会

「問題点の整理」

支援が必要な子どもの問題をどう考えるか

福山市社会福祉協議会

基幹相談支援センター クローバー

相談支援専門員（言語聴覚士・社会福祉士）永井 智樹

1

休校中、

皆さんははどんなことを考えていましたか？

「どうしたらいいんだろう…」

考えられない

「なぜこんなことになったんだろうか」

原因を考える

「今、何ができるだろうか」

今できることを考える

「再開したら何をしたらいいだろうか」

先のことを考える

「感染防止はどうしたらいいだろうか」

未知のことを考える

個人によって考え方や意見は異なるはずです

2

「Withコロナ時代」が始まっています

「あの頃はよかった…」と思っても戻れません

先のことは誰にもわかりません

新たな価値観、方法を考え、みつけていくしかありません

だからこそ、
「なぜ？」「かもしれない」「だとしたら」と
一緒に考える必要があります

「Aかもしれない」「Bも考えられる…」

A, B, C, D, E, F...

イメージする、推論する

どんなことを前提にするのか
何を優先順位の上にするのか

立場、経験、背景などによって
異なる

みんな同じようにイメージしたり、
推論したりしているわけではない

- ・忙しいと いちいち考えている余裕がない
- ・素直、真面目、かしこい人(中に)
「間違えてはいけない」「正しい答えを言わないといけない」

答えありきの考え方になりやすい 答えだけ知りたい

「こうあるべき」「決まりはこうです」
当てはまらないことは「×」「間違い」「認められない」

自分と異なる意見、行動する人を否定、批判する
自分の意見・行動を否定、批判されるかと思うと不安になる

今の時期

授業中落ち着かない

休校が続いたせいかな…

自分の思いが出せない

どちらも正しくて、どちらも違うかもしれない



よし！ わかった！
犯人は〇〇だ！

市川崑監督の「金田一耕助」シリーズの映画に登場する
等々力警部のように決めつけていませんか？

推論の「論拠」は？

決めつけない その推論の根拠・論拠は？

○やる気がないからだ ➡ 「やればできる！」「努力しなさい！」

本 どうやったらやる気になるか
人 いつ、どんなやり方をどれくらいしたらいいか わからない

➡ できないと さらに叱られる 諦める 自信をなくす

○やる気がないのかもしれない

いつから？きっかけは？
何だったら、どんなときは意欲的？

➡ 「これならできると思うよ」
「こうしてみたらいいよ」
「できたね」

本 こうやったらいいんだ これなら・ここまでならできる
人 もっとやってみよう わかってもらえる 認めてもらえる

7

「事実・出来事」

授業中、立ち歩きをする

↓
「推論」

「どうしてだろう？」

Aかもしれない Bも考えられる



その推論の根拠は？他に考えられることは？

どんな情報があれば、何が明らかになると考えやすくなるのか

↓
「意見」

「気になるものが目に入ると
集中が続かなくなるのかも」

↓
「方針」

「だとしたら…」



「実行」



「振り返り」「推論」



8

小学校に上がった子どもが、授業中じっとしておられず、すぐに立ち上がってウロウロする。

「どうして？」

注意欠陥多動性障害
(注意欠如多動性障害)が
あるからではないか

自閉症スペクトラムの問題が
あるからではないか

「原因」を考える発想

学校での授業がどのような意味が
あるのか分かっていない
分かった上で、自分にとって興味が
持てない、おもしろくない

だから
じっと机の前に座ってられない

その子にとっての「理由」
を考える発想

浜田寿美男(奈良女子大名誉教授)

「自閉症の症状は形成される「発達」161

特集わたしの自閉症論 2020より

9

「原因」を考える発想

その子にとっての
「理由」を考える発想

いずれの発想に立つかによって、問題の見え方は違ってきます
そして、その子へのかかわり方も変わってきます。

薬は「因果(原因)」には効いても、その子の「理由」に効くことは
ありません。

下手をすれば子どもが生きる「理由の世界」に目をつむるという
ことになりかねません。

浜田寿美男(奈良女子大名誉教授)

「自閉症の症状は形成される「発達」161

特集わたしの自閉症論 2020より

医師は診断・治療のために「原因」を考える

教員は、子どもの行動から「理由」を考えることが大切では？

10

こどもの気になる行動の背景にあるもの

こども自身の要因

理解力(平均の下、上?)、認知特性(視覚優位?短期記憶が弱い?…)
行動面(転導性、衝動性、過活動、協調運動の苦手さ…)
対人、社会性(相手の意図、周囲の状況を察することが苦手、自分ルール)
生育歴、既往歴(発達障がいの診断の有無、加療中の疾患など)…

家族・家庭環境の要因

親子関係、きょうだい関係(厳しいしつけやネグレクト、多子家庭…)
経済的な状況、他の国や文化にルールがある家庭、地域性…

学校の要因

クラス集団の構成児童の状況(支援が必要な子が多い、荒れている…)
学校全体としての問題、教員側の要因…

11

こどもの気になる行動の背景にあるもの

こども自身の要因

家族・家庭環境の要因

学校の要因

優先順位を上にした方がいいのは?

こども自身の要因 を考える際に、

発達障がいの特性や、思考の発達などの知識があると
推論しやすくなるはず

12

小学校3年生 男児

授業中、じっとできない 学力が低い わざと気を惹こうとする

- ・ひとり親家庭 母は帰りが遅いようで、なかなか連絡がつかない
参観日にも来れないときがある
- ・クラスには同様の児童が数人いる
- ・担任は女性で今年2年目
- ・漢字を書くとき、枠からはみ出す 一マス飛ばして書いている
気になるものが目に入ると注意がそれやすい

「家庭の問題」「お母さんが忙しいから」「愛情不足」…
から考える人はいませんか？家庭の問題はブラックボックス
本当にそうなのか？どんな情報があると、そうだと言えるか
もしそうだとすると、どんな指導・支援ができるか

例) 小学校3年生 男児		
困っていること 悩んでいることなど	考えられること (原因・理由など)	対処方法 これから取り組むことなど
授業中、じっとできない 学力が低い 漢字書くとき枠からはみ出す はみ出す 一マス飛ばして書く わざと気をひこうとする 一人親家庭 母とは連絡取り にくい 参観日も来校しにくい 担任は女性で今年2年目 クラスには同様の児童が 数人いる	○子どもの要因	
	○家族・家庭環境の要因	
	○学校の要因	

子ども自身の要因（WISC-Ⅳで評価する視点）

苦手

得意

言語理解

自分の気持ち、考えをことばで表現する
説明を聞いたり文章を読んだりして理解する
相手の意図、真意（言葉の裏にあるもの）を察すること

知覚推理

映像を見て理解・判断・覚える、表現する
模様や記号、漢字などの特徴をとらえる
場所や空間を認知、把握する

ワーキング
メモリー

情報を聞き取って覚え、実行する（ワーキングメモリー）

処理
速度

身体の各部位を連動させて、作業する・行動する

さらに 理解力が平均範囲内か、下か、上か

この研究会で
一緒に学ぶこと

家族・家庭の要因

お母さんが家でしっかりみてあげられていないからだとしたら、
どんな問題が生じると考えられる？

気を惹こうとする？

意識的に、できて当たり前のことであっても「認める」ことが必要
他の児童・生徒にも、同様の対応をする必要があるはず

学習？

「何を」「どんなやり方で」「どのようにしたら」できるか
自分のやった「結果」を認めてもらえるという実感が大切
その結果・事実や方法を保護者に伝え、共有する

保護者に「愛情不足」はNGワード 親にとってどれほど辛い言葉か
「チーム」で一緒に育てていこうとしていることを伝えるべき

学校の要因

学校としての問題(地域的な問題、組織、人間関係…)
クラス集団の問題(他の児童・生徒の影響が大きい…)
教員自身の問題(経験、資質…)

- ・ 何からしたらいいんだろう…
- ・ どこから、どのようにしたらいいんだろう…
- ・ 誰に、いつ、何をお願いしたらいいんだろう…

そもそも、困っている、悩んでいる人は優先順位の判断がつかない

“どうでもいい”人は悩まない でも”あきらめている“こともある
他者の意見を参考にする できることをする 振り返りと修正

17

共通する価値観、方針の人が集まると安心

「こうあるべき」「こうしたらいい」
余計なことを考えなくても済む

異なる立場、観点、やり方が入ってくると複雑、面倒になる
感情的になる、あきらめる…

「このままではいけない」「なんとかしたい」

お互いの利害が一致するところを共有する
「これならできる」を実践し、振り返り、修正する

「この研究会に来たら、分かり合える人がいる」「またがんばろう」
そう感じてもらえる場になったら嬉しいです

18

例) 小学校3年生 男児		
困っていること 悩んでいることなど	考えられること (原因・理由など)	対処方法 これから取り組むことなど
授業中、じっとできない 学力が低い 漢字書くとき枠からはみ出す はみ出す 一マス飛ばして書く わざと気をひこうとする 一人親家庭 母とは連絡取りにくい 参観日も来校しにくい 担任は女性で今年2年目 クラスには同様の児童が数人いる	○子どもの要因 全体的な理解力が低いのかな？ しないといけないこと、情報量が多いと細かい部分に目が届かない？ 集団内で常にできなさを感じている 誰かに分かって欲しい、認めて欲しい？	どこまでわかる、できるのか確認 できているところは○ できていないところは×をつけない どうしたらいいか教える できないところは求めない 量を減らす マスを大きくする 何だったら認められるか考える
	○家族・家庭環境の要因 こどもと一緒に過ごす時間が少ない わが子の課題と向き合うことができない？ 頼れる人が少ないのかな？ 問題を抱え込んでいるのかも？ 何から、どうしたらいいのかわからない？	母が「頑張っている」ことの承認 (「愛情不足」と伝えるのはNG) どんな工夫や配慮があったらできるのか 実践で伝える どんなことがもっとわかったら指導しやすいかを伝える(チーム支援を強調)
	○学校の要因 自分の問題 } 何ができて、 クラスの問題 } 何が、どんな理由で 学校の問題 } できないのか 誰と、何について利害の一致ができるか 誰に、いつ、何を頼ったら自分ができるか	優先順位の整理 何から、どこから、誰とだったら取り組めるかを考えて実行(実践) 実践の振り返りと修正 できたこと・できなかったこと その理由 方針を立てて実行、振り返り(繰り返し)

何から、どうしたらいいかわからない…

優先順位の上にくることは？

先のことより「今」 難しいことより「確実にできそうな」こと

・ 最初から「正解」を求めない

・ 実践・実行した結果を振り返る

「できたこと・できなかったこと・その理由」

「どうしたい」「どうありたい」のか(ねがい)
「どうなって欲しい」のか(期待)

はじめから
一致する
訳ではない

「方向性」を確認する

○そのために、何を、どうしたらいいのか



○うまくいかないのはどうしてか



○だとしたら、どうしたらいいか

一緒に考える

振り返る

答えを見つける

子どもの「なぜ」を考えられたら
対策を立てやすくなる

的確な論拠を元にした推論から導かれた方針と
適切な指導実践があると、振り返りがしやすくなる
「なぜ効果があったのか」「なぜうまくいかないのか」

適切な指導実践は、子どもの自信にもつながる

「これならできる」「ここまでならできる」
「自分のことをわかってくれて、どうしたらいいか教えてもらえる」

子どもの「見方」が変わると子どもの「味方」になれる

一緒に考えてくれる、わかってくれる人がいるからできること
「主体的、対話的で、深い学び」 大人・教員にも必要では？